



## 入試改革の先進事例 アサーティブプログラム、アサーティブ入試 シンポ「教育改革につなげる入試改革と高大接続」開催

追手門学院大学（大阪府茨木市、学長：川原俊明）が取り組む大学入試改革の先進的事例として全国的に注目を集めている、アサーティブプログラム・アサーティブ入試をテーマにしたシンポジウム「教育改革につなげる入試改革と高大接続」を、7月27日、追手門学院大学茨木総持寺キャンパスで開催します。

当日は3部構成で行われ、はじめに教育学者で学校法人桐蔭学園理事長の溝上慎一氏が「アサーティブプログラムから示唆される高大連携と教学マネジメント-大学生になってからでは遅い」と題して基調講演します。

続いて福島一政追手門学院大学副学長が、この5年間の「アサーティブの取組」を振り返り、成果と課題を報告します。

最後に「教育改革につなげる入試改革と高大接続」をテーマに、学外の有識者と本学の教職員がパネルディスカッションを行います。

追手門学院大学の「アサーティブ」は、学力試験による選抜型から育成型への転換をコンセプトに2014年度より取り組みを進めているものです。このうちアサーティブプログラムは、全職員の半数が関わる個別面談をメインとし、アサーティブ入試はグループディスカッションと学力検査の1次試験と2次面接で構成しています。文部科学省の「平成26年度大学教育再生加速プログラム」の入試改革の分野において私立大学では唯一採択を受け、制度に基づく中間評価でも最高のS評価を唯一受けました。

本学は「アサーティブの取組」を進めたことで、職員と教員が立場を超えて協働する機運が醸成され、今後の教育改革を担う職員の能力開発にもつながっています。「アサーティブ」を軸に教育改革、入試改革、高大接続を多面的に考えます。

### 【ポイント】

- 「アサーティブ」を軸に教育改革、入試改革、高大接続を考えるシンポジウム
- 「アサーティブ」は文科省の大学教育再生加速プログラムに採択、中間評価でもS評価
- 「アサーティブ」導入から5年。教育改革に求められる教職協働の事例としても注目

### 【概要】

日 時：2019年7月27日（土）14時～17時30分

会 場：追手門学院大学茨木総持寺キャンパス（大阪府茨木市太田東芝町1-1）

予 定：

第1部 基調講演（溝上慎一学校法人桐蔭学園理事長）

第2部 アサーティブプログラム・アサーティブ入試の成果と課題（福島一政追手門学院大学副学長）

第3部 パネルディスカッション（大塚雄作独立行政法人大学入試センター客員教授、倉部史記NPO法人NEWVERY 外部理事、山本繁大正大学地域構想研究所兼エンロール・マネジメント研究員、

真銅正宏追手門学院大学副学長、志村知美追手門学院大学アサーティブ課長）、コーディネーター池田輝政前追手門学院大学教授

この資料の配付先：大阪科学・大学記者クラブ、北摂記者クラブ等

【発行元】

追手門学院 広報課 TEL：072-641-9590 足立・谷ノ内

定員300名

入場無料



アサーティブシンポジウム

# 教育改革につなげる 入試改革と高大接続

～追手門学院大学の挑戦～



2019年 **7月27日(土)** 14時 00分～17時 30分  
 追手門学院大学 茨木総持寺キャンパス WILホール

基調  
講演

## アサーティブプログラムから示唆される 高大連携と教学マネジメント - 大学生になってからでは遅い



学校法人桐蔭学園 理事長  
 トランジションセンター所長・桐蔭横浜大学特任教授

溝上 慎一 氏

### PROFILE

1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学高等教育教授システム開発センター助手、2000年講師、2003年京都大学高等教育研究開発推進センター准教授。2014年教授を経て、2018年9月に桐蔭学園へ異動。2019年4月より現職。京都大学博士(教育学)。  
 日本青年心理学会理事、大学教育学会理事、“Journal of Adolescence” Editorial Board委員、学校法人河合塾教育研究開発本部研究顧問、中央教育審議会専門委員、大学の外部評価・AP委員、高校のSGH/SSH指導委員など。日本青年心理学会学会賞受賞。

学長挨拶 追手門学院大学 学長 川原 俊明

第1部 基調講演:アサーティブプログラムから示唆される高大連携と教学マネジメント - 大学生になってからでは遅い

学校法人桐蔭学園 理事長  
 トランジションセンター所長・桐蔭横浜大学特任教授 溝上 慎一 氏

第2部 アサーティブプログラム・アサーティブ入試の成果と課題

追手門学院大学 副学長 福島 一政

シンポジウムの  
会場アクセスは  
裏面をチェック!



第3部 教育改革につなげる入試改革と高大接続 (パネルディスカッション)

パネリスト  
 大塚 雄作 氏 (独立行政法人大学入試センター 客員教授/前同センター副所長【試験・研究統括官】)  
 倉部 史記 氏 (NPO法人NEWVERY外部理事/追手門学院大学アサーティブ研究センター客員研究員)  
 山本 繁 氏 (大正大学地域構想研究所兼エンロール・マネジメント研究員)  
 真銅 正宏 (追手門学院大学学長代理/副学長)  
 志村 知美 (追手門学院大学アサーティブオフィサー/アサーティブ課長)

コーディネーター 池田 輝政 氏 (前追手門学院大学教授/前アサーティブ研究センター長)



想像もしなかった自分史がはじまる  
 おうてもん

## 追手門学院大学

## ご挨拶

追手門学院大学は7年前に、社会の要請に機敏に応えることを目指して、大胆なガバナンス改革を行いました。学校法人追手門学院理事会と一体となった改革で、教授会を学長の諮問機関とするなど理事長や学長のリーダーシップが発揮でき、それを強力に補佐する体制をつくりました。

アサーティブプログラムとアサーティブ入試は、そのもとで実現した本学教学改革の第一弾ともいえる象徴的な改革事例です。

2013年度に担当者たちが苦勞して設計した「アサーティブ」の取組は、2014年度に「大学教育再生加速プログラム」の入試改革領域で私立大学では唯一採択され、国からの補助金を得ることができました。2017年度には、その中間評価が行われ、「S」評価をいただき、大学入試改革のモデルたりうるとされました。2019年度は、その補助金の最終年度となりましたので、これまでの成果と今後の課題を明らかにしたいと考えて今回のシンポジウムを企画しました。

文部科学省の「高大接続システム改革会議」は、2016年3月に「最終報告」を発表し、高校教育と大学教育、入学者選抜の一体的改革の在り方について抜本的な提起を行いました。入学者選抜については、大学入試センター試験の廃止と共通テストの新設、とりわけ、国語と数学の記述式テストと、英語の四技能テストの導入が話題の中心となっています。これから先は、未来を担う青年たち一人ひとりの成長を図るために、個々の大学・高校や高大連携の取組を一層発展させる必要があるでしょう。参加者の皆様と一緒に考える機会となることを願っております。

ご登壇いただく講師やパネリストの皆様は、今回のテーマについて理論的にも実践的にも造詣の深い方ばかりです。本学の新しいキャンパス（総持寺キャンパス）を体感いただきながらご参加いただきたいと思います。

追手門学院大学 学長 川原 俊明

## 会場案内

### 追手門学院大学 茨木総持寺キャンパス WILホール

※駐車場はありませんので、公共交通機関でお越しください。



- ・JR総持寺駅から徒歩約10分
- ・阪急総持寺駅から徒歩約19分

#### □路線バスでのアクセス

阪急茨木市駅から近鉄バスが  
キャンパス前まで運行しております。  
阪急茨木市駅

乗車時間  
約16分

↓  
追大総持寺キャンパス前(花園・東和園行き)

## お問い合わせ先

追手門学院大学 教務部 アサーティブ課  
〒567-0013 大阪府茨木市太田東芝町1-1

TEL: 072-697-8193  
E-mail: assertive@otemon.ac.jp

## シンポジウム

## 教育改革につなげる入試改革と高大接続

参加申込書

FAX: 072-697-8216

当日は13:00～受付開始

※新キャンパス見学希望の方は13:00までにお越しください。  
学生によるキャンパスツアーを実施いたします。

所属団体・機関名	TEL:	
ご住所 〒	FAX:	
(ふりがな) お名前	部署・役職	E-mail

#### 個人情報の取り扱いについて

- ①ご提供いただいた個人情報は、本シンポジウム開催に際しての管理・連絡に使用させていただきます。
- ②ご提供いただいた個人情報は、委託及び第三者提供を行いません。

締切: 2019年7月19日(金)